

4段階評価 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要す

本年度の重点目標〈1：学力の向上 2：心の教育の充実 3：体力の向上 4：地域との連携〉

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果コメント	総合評価	学校運営協議会委員評価コメント
学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「できる・わかる」授業づくりと児童主体の授業づくりへの改善 ○ 自分の言葉で根拠を基に説明できる授業づくりへの挑戦 ○ 基本的な学習態度の共通実践 ○ 個に応じた指導の工夫と家庭学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度に引き続き、児童主体の分かりやすい授業づくりについて算数科の授業研究に取り組んできた。しかし、学力調査等の結果を経年比較すると、昨年度よりも向上している学級が見られるものの、まだ十分定着しているとは言えない。 ○ 立腰など基本的な学習態度の確立に取り組んできたが、昨年度同様にやや児童の自己評価が低い。学年や学級差も大きいため、学期の初めなど共通実践を徹底する必要がある。 ○ より児童一人一人に合った学びを構築するために、タブレットに加えて本年度から電子黒板を導入した。ICTを積極的に活用した授業改善が着実に定着しつつあるが、教員によって活用状況に差が見られ、外部機関等と連携した研修がさらに必要である。 	<p>3. 3</p> <p>昨年度 (3. 3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力の向上と心の教育の充実の評価は、昨年度と同様で見直していかなければならないことはあると思いますが、課題と向き合い、前進あるのみだと思います。 ○ 短い時間なので学力の向上までは分からないが、児童主体の分かりやすい授業だった。 ○ 学力の向上で、保護者と職員との評価に差が見られるのは、職員は学力調査の結果から評価しているからではないでしょうか。 ○ タブレット、電子黒板などICTの活用は、これからの社会では特に重要視されるものだと感じた。 ○ タブレットや電子黒板などのICTの授業が進むにつれて、先生方をはじめ、私達学校に関わる者も、いろいろ情報を共有しないと実感しました。 ○ 発表の場面でも児童一人一人が自分の思いを一生懸命発表する姿が素晴らしいと思った。 ○ 1年生の児童が前に出て発表する姿を見て驚きました。しっかりとした発表で先生の指導が素晴らしいと感じました。
心の教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人権教育の視点に立った指導の充実 ○ 元気のよいあいさつの励行と基本的な生活習慣の定着 ○ 積極的な読書活動の推進 ○ 働くことの大切さや意義の理解と積極的なボランティア活動の推進 ○ 一人一人のニーズに応じた教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人権教育について職員研修を行い、共通実践を行った。児童の人権を尊重する意識の自己評価が保護者や教員よりも高い。 ○ あいさつについては、児童の自己評価は高いが、保護者及び職員の評価は、高いとは言えない。あいさつを含め、基本的な学習習慣の定着については、家庭と連携して取り組む必要がある。 ○ 学校では、個人目標を設定し、積極的に読書活動を推進しているが、家庭では、スマホ・ゲームなどの使用が多くなっていると考えられるため読書習慣の定着に繋がっていないと考えられる。 ○ 校内では、朝の清掃活動等のボランティアに一生懸命取り組む学年が昨年度に比べて多くなった。 	<p>3. 2</p> <p>昨年度 (3. 2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心の教育の充実やあいさつ、生活習慣の定着、保護者の評価が低いのは、我が事だからと思う。家庭で行うことができるかどうかの評価になる。 ○ あいさつは、私は良いと思っています。 ○ 読書はスマホやゲーム主体の中では、強く求めるのは、いかなものか。読書に代わるものを探すべきではないか。
体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力向上プランの具現化及び体育の授業における運動量の確保 ○ 食育・睡眠・立腰正しい姿勢の指導の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養教諭の給食時間訪問での地産地消の紹介や出前講座（「とんとん教室」）等を行い、食育の充実に努め、食べ残しや残乳の削減を図ることができた。 	<p>3. 3</p> <p>昨年度 (3. 4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力の向上は、昨年度より下がっていますが、確かに外で遊ぼうと呼びかけるだけでなく、実際に何か行動に起こした方が、子ども達には分かりやすく体力の向上にもつながるような気がします。

	○ 昼休みの外遊びの奨励	○ 昼休みの外遊びについては、二極化傾向が見られる。体力向上 に合わせた具体的な手立てや取組が必要である。		
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域と連携した教育活動の推進 ○ 幼保小連携の合同研修及び児童生徒の交流活動の推進 ○ 小中一貫教育の推進及び児童生徒の交流 ○ SDGsを意識した「えびの学」の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○ P T Aや地域学校協働本部、まちづくり協議会と連携し、学校行事の充実を図ることができた。その様子を学校便りやホームページで積極的に発信した。 ○ 幼保小の合同研修会を定期的実施し、「知・徳・体」の到達目標を共有・共通実践することができた。 ○ 小中合同研修会を年3回実施し、共通実践の取組や中1ギャップの解消に向けて共通理解・意見交換を行うことができた。 	<p style="text-align: center;">3. 5</p> <p style="text-align: center;">昨年度 (3. 4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域との連携の評価が高くなっているのは本当に嬉しいことです。私たち地域学校協働推進員を通さずとも、地域とつながれるというのが一番だと思います。P T A、まちづくり協議会とのつながりが今後とも変わらずあるように私も協力できることは全力でします。 ○ 地域との連携は、昨年度よりも上がっているのは嬉しいことです。地域の方との交流、体験の場をこれからも増やしていき、活動していくことで、子ども達が授業の中で学べないことを学ぶ良い機会になると思います。来年度もぜひ続けていってください。 ○ 今年度は、まちづくり協議会としては、特に学校行事に参加できたのではないだろうか。P T A会長、校長、教頭の積極的な取組が伝わり、一緒に学校行事に参加できたことが児童との交流につながったと思う。全て事故無く、楽しく実施できたことに感謝しています。 ○ 昨年の魚釣り大会、今回のしいたけの駒打ち体験、児童のキラキラした目の輝きが良かったです。 ○ 地域との連携の中の保護者への連絡については、職員と保護者の差が大きい。なぜなのか、このことは検証の必要があると思います。